

特別展

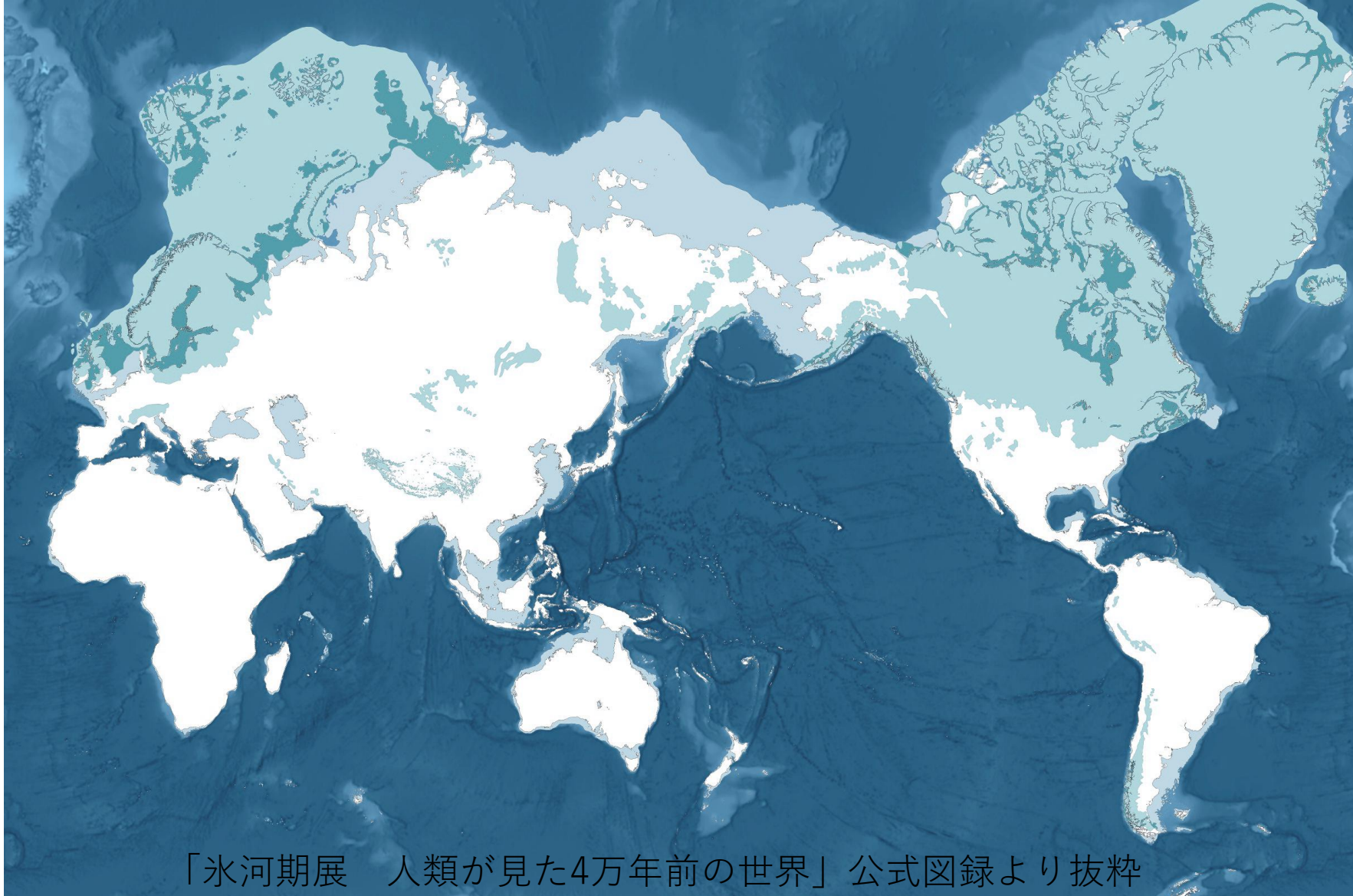
氷河期展

人類が見た4万年前の世界

ヒヨウガキ



約2万年前の世界



「氷河期展 人類が見た4万年前の世界」公式図録より抜粋

氷河期のイメージ



ホラアナライオン(生体復元模型)
ライス・エンゲルホルン博物館所蔵



ケナガマンモス(生体復元模型)
ライス・エンゲルホルン博物館所蔵



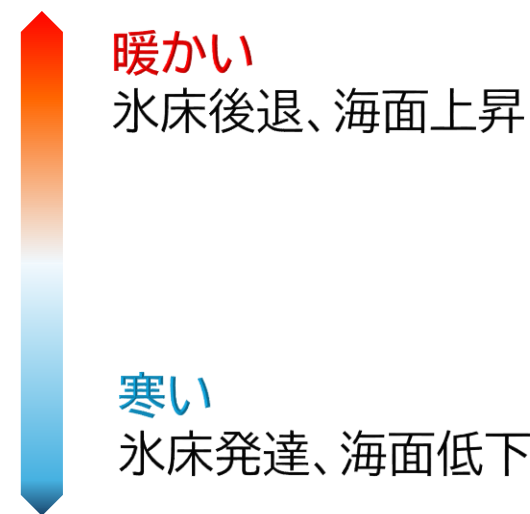
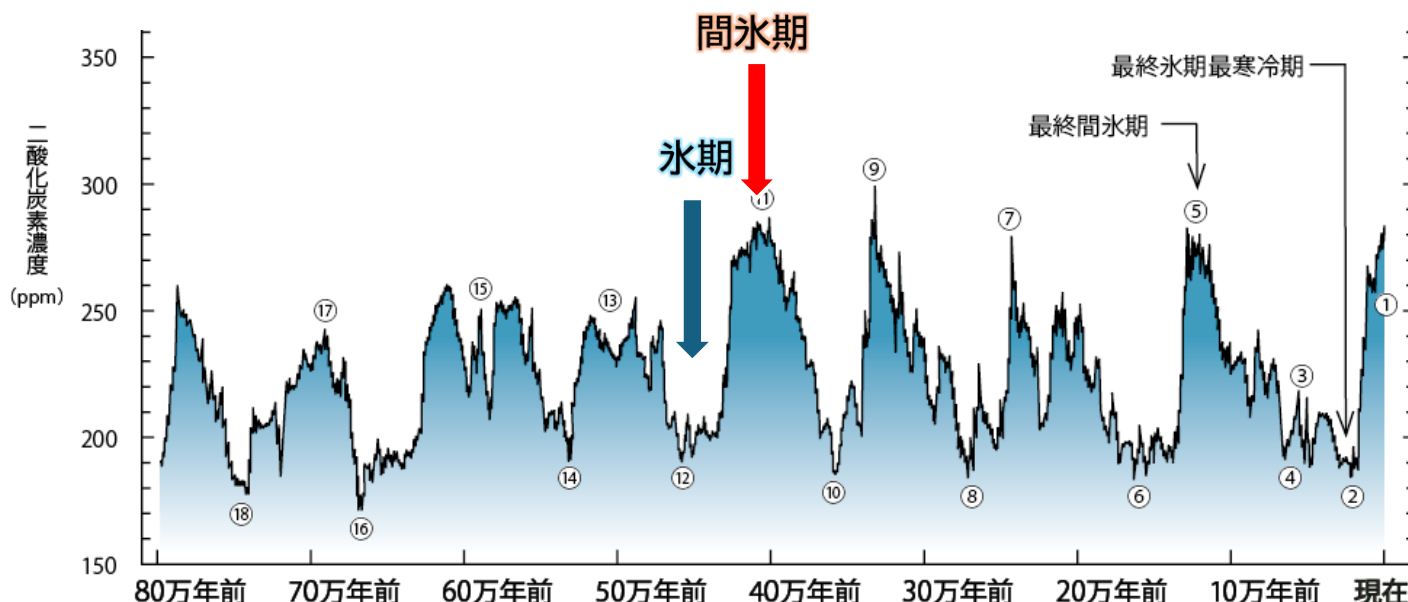
ネアンデルタール人復元模型

氷河期とはどんな時代なのか

厚い氷の塊「氷床(ひょうしょう)」が存在する時代

寒冷な「氷期(ひょうき)」と、

比較的温暖な「間氷期(かんびょうき)」が4~10万年単位で繰り返す



実は

- 北極と南極などに氷床がある、**今も氷河期！**
- 約260万年前から始まった「第4紀氷河期」
- 比較的温暖な **「間氷期**（かんびょうき）」

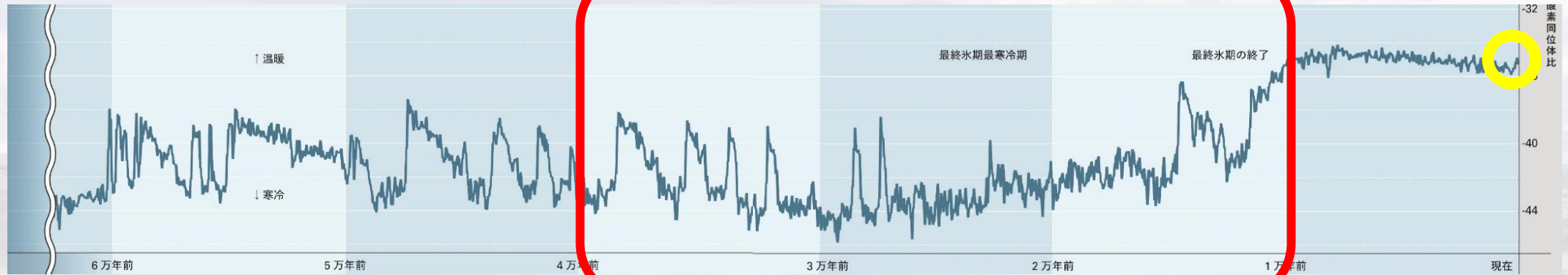
「氷河期展」の時代

約6万年前のCO₂濃度の変化と気温

氷期

間氷期

いまココ



暖かい

寒い

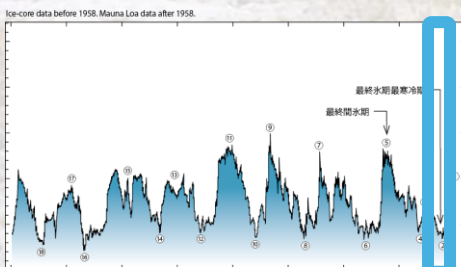
6万年前

4万年前

2万年前

現代

「氷河期展」の時期



極寒の中を生きた巨大動物や人類 絶滅と生存、命運を分けたものは何か



ギガンテウスオオツノジカ
生体復元模型



ネアンデルタール人復元模型



ステップバイソン
生体復元模型



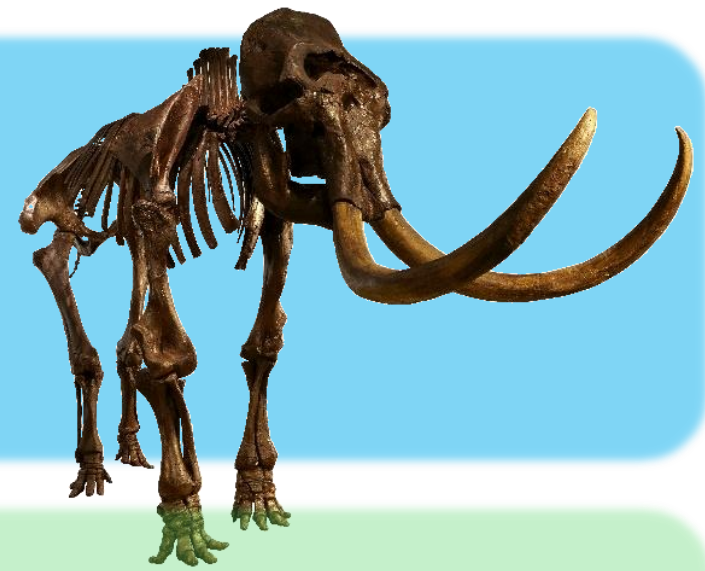
ケナガマンモス生体復元模型

クロマニヨン人復元模型

大型動物：ドイツ ライス・エンゲルホルン博物館所蔵
人類復元模型：ELISABETH DA YNES・TBS所蔵

第1章 氷河期 ヨーロッパの動物

巨大動物群「メガファウナ」の全身骨格や生体復元模型から、
極寒の氷期に生きた動物たちを紹介



第2章 ネアンデルタール人とクロマニヨン人

彼らの使用した道具、文化、生き抜くための知恵とは？
両者を比較しながら解説



第3章 氷河期の日本列島

氷河期の日本列島に生きた大型動物や人類の暮らしを、
日本三大絶滅動物の全身骨格や石器類から詳しく紹介



第1章

氷河期 ヨーロッパの動物

氷河期のヨーロッパでは、
氷床と草原が広がる環境の中、
「メガファウナ」と呼ばれる
巨大動物たちが生きていた。



ケナガマンモス全身骨格(レプリカ)
(ライス・エンゲルホルン博物館所蔵)©Frank Gaudlitz

いざ、氷河期の世界へ



迫力のスケール！



全長約
5.5m

ケナガマンモス全身骨格(レプリカ)
(ライス・エンゲルホルン博物館所蔵)©rem, Foto:
Sarah-Nelly Friedland



高さ約
2.2m



ステップバイソン生体復元模型
(ライス・エンゲルホルン博物館所蔵)©Marc Steinmetz

クロマニヨン人復元模型

©2025 Sculpture ELISABETH DAYNÈS, France

肋骨に槍の跡！人類と肉食獣の戦い

全長約
2.4m



槍の刺し傷のついたホラアナライオンの肋骨
(マンモス博物館ジークスドルフ所蔵)

ホラアナライオン生体復元模型
(ライス・エンゲルホルン博物館所蔵)

第1章のポイント

- 巨大動物「メガファウナ」は、極寒の環境を生き抜くために、巨大な体や分厚い脂肪、長い毛並みなどを発達させた。
- 極寒の環境に適応した、その姿とは？
- そして人類が、彼らとどのように立ち向かったのか。
- 全身骨格や復元模型、痕跡から、当時の世界観を実感できる。

第2章

ネアンデルタール人とクロマニヨン人

メガファウナが闊歩する世界で、
我ら人類の祖先も
知恵と技術を駆使して
同じ時代を生きていました。



日本初上陸！2種類の人類



ネアンデルタール人頭骨(男性)

4万5千年～4万3千年前

ラ・フェラシー1号(パリ国立自然史博物館所蔵)

© MNHN - JCDomenech



クロマニヨン人頭蓋骨(女性)

2万8千年～2万7千年前

クロマニヨン2号(パリ国立自然史博物館所蔵)

© MNHN - JCDomenech

ネアンデルタール人とクロマニヨン人を比較

ラ・シャベル・オー・サン「老人」(頭骨)

Homo neanderthalensis

分類: ネアンデルタール人
時代・文化区分: 中期旧石器時代、ムスティエ文化
年代: 5万6000年前~4万7000年前
出土地: ブフィア、ボンヌヴァル洞窟、
ラ・シャベル・オー・サン(フランス、コレーズ県)
発掘年: 1908年
[レプリカ]



ラ・フェラシー1号(頭骨)

Homo neanderthalensis

分類: ネアンデルタール人
時代・文化区分: 中期旧石器時代、ムスティエ文化
年代: 4万5000年前~4万3000年前頃
出土地: ラ・フェラシー-若狭遺跡、
サヴィニャック=ド=ミルモン(フランス、ドルドーニュ県)
発掘年: 1909年
[実物]
パリ国立自然史博物館所蔵



クロマニヨン1号(頭骨)

Homo sapiens

分類: ホモ・サピエンス
時代・文化区分: 後期旧石器時代、グラヴェット文化
年代: 2万8000年前~2万7000年前
出土地: クロマニヨン岩窟遺跡(フランス、ドルドーニュ県)
発掘年: 1868年
[実物]
パリ国立自然史博物館所蔵



クロマニヨン2号(頭蓋骨)

Homo sapiens

分類: ホモ・サピエンス
時代・文化区分: 後期旧石器時代、グラヴェット文化
年代: 2万8000年前~2万7000年前
出土地: クロマニヨン岩窟遺跡(フランス、ドルドーニュ県)
発掘年: 1868年
[レプリカ]



2種類の人類の違い

ネアンデルタール人



- がっしりした体格
強靱な筋肉
- 槍を中心とした武器
- 接近戦で狩猟
- 動物の皮を利用

ネアンデルタール人復元模型
©2019 Sculpture ELISABETH DAYNÈS, France

クロマニヨン人



- ほっそりした体格
長い手足
- 飛び道具も制作
- 集団で狩猟
- 縫針で服を制作

クロマニヨン人（1号）復元模型
©2025 Sculpture ELISABETH DAYNÈS, France

最新の分析と研究で**新たな事実が**！

- ネアンデルタール人の**遺伝子が現代人にも**！
- 2種類の人類は、**共存し、交雑していた**。
- しかし、ネアンデルタール人は**4万年前までに絶滅**。
- **彼らの命運を分けたのは？**

第2章のポイント

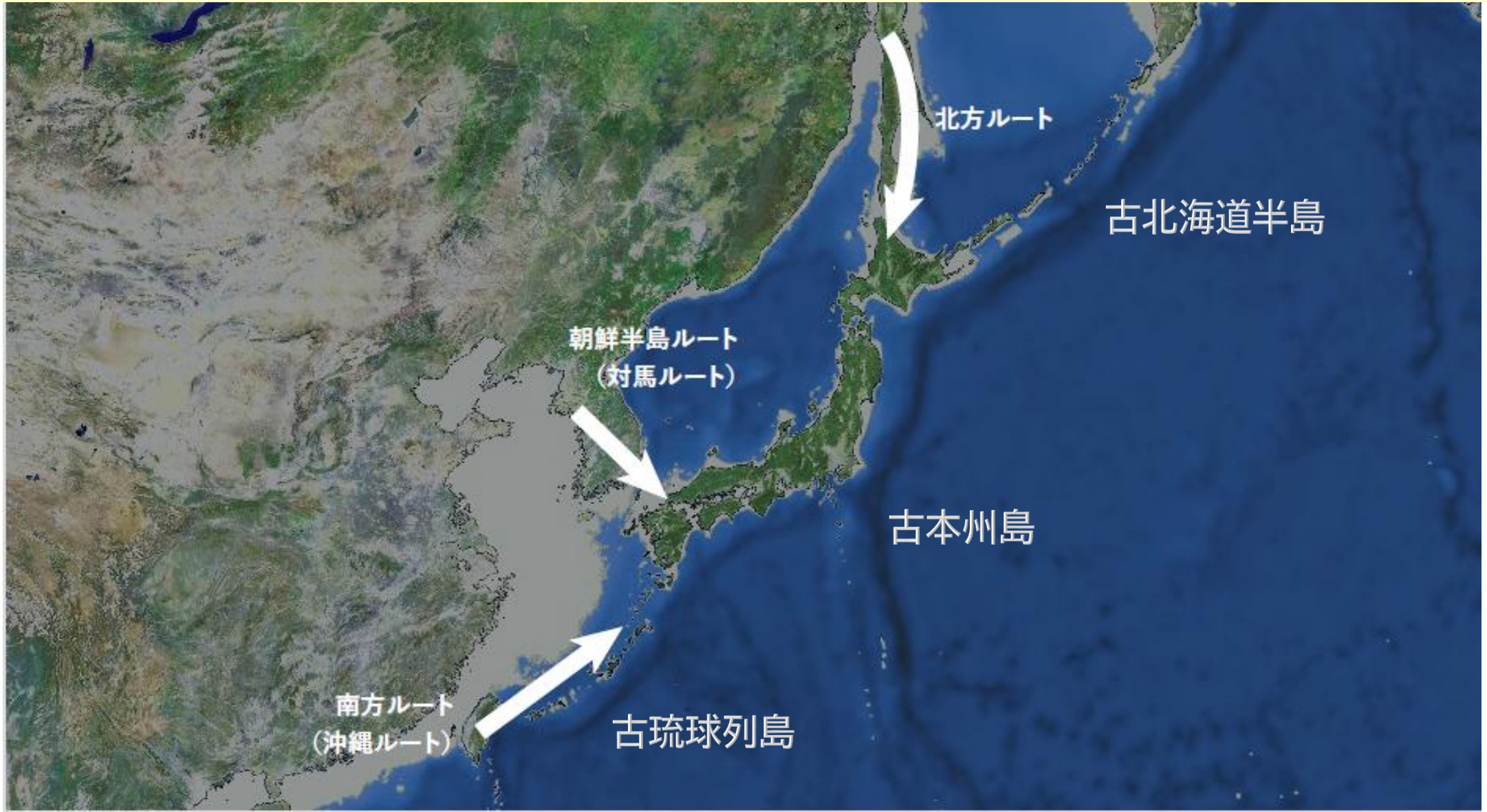
- 氷河期の2種類の人類。日本初上陸となる実物の頭骨を比較。
- 彼らの姿や暮らし、道具にはどんな違いがあったのか。
- ネアンデルタール人は4万年前には絶滅。気候変動、資源入手の困難、社会ネットワークの違いなど、様々な要因が重なった。
- 会場では、更に詳しく、その謎に迫る！

第3章

氷河期の日本列島

人類が約3万8千年前に到達した日本は、
古北海道半島・古本州島・古琉球列島と
大きく3つの地域に分かれ、
それぞれ違った環境が広がっていました。

最終氷期(約3万8千年前)の日本



氷河期の日本の動物

- ナウマンゾウやヤベオオツノジカ、バイソンの仲間のハナイズミモリウシなどのメガファウナの痕跡が残る。
- これらは日本三大絶滅動物とされる。
- 各地域で、生息した動物が異なる。
- リュウキュウジカなど、地域特有の進化をとげた動物も。



ハナイズミモリウシの全身骨格(レプリカ)
(岩手県立博物館所蔵) 図録より転載

氷河期の日本の人類

- 港川人や浜北人など、氷河期の人骨が各地で発見されている。
- 人類が日本に渡ってきたルートは、3つが想定されている。
- 最古の人類の痕跡は約3万8千年前、熊本県や静岡県で出土。
- その他にも痕跡があり、そのくらしには地域性が見られる。

人類が使った道具

- 鋭利な狩猟道具、皮をなめす・木材を加工する道具など、多様な石器を制作。
- 世界でも稀な、落とし穴を利用した動物の捕獲も。
- 1万6千年前からは土器も制作。
- いずれの道具にも地域性が見られる。



ユーラシアに繋がる石器群
北海道指定有形文化財・幌加川遺跡遠間地点出土石器
(遠軽町埋蔵文化財センター所蔵) 図録より転載

第3章のポイント

- 約3万8千年前までには、人類が日本に到達。
- 海水面の低下により、陸地が拡大、大陸とも繋がっていた。
- 古北海道島、古本州島、古琉球列島の大きく3つの地域にわかれ、3つのルートを通して人類が渡ってきたと考えられる。
- 各地域で、環境の違いによって、生息動物や人類の文化に違いが認められる。

楽しみ方① メガファウナの迫力のスケール！



ケナガマンモス全身骨格・生体復元模型

楽しみ方② 当時の動物たちの姿を再現！



ホラアナグマ生体復元模型
©Tobias Schwerdt

ケサイ生体復元模型
©Frank Gaudlitz

いずれもドイツ ライス・エンゲルホルン博物館所蔵

ケナガマンモス
生体復元模型
©Frank Gaudlitz

楽しみ方③ 日本初上陸の頭骨！

ネアンデルタール人頭骨(男性)

ラ・フェラシー1号(パリ国立自然史博物館所蔵)

©Tobias Schwerdt



ネアンデルタール人復元模型

©2019 Sculpture ELISABETH DAYNÈS, France



クロマニヨン人頭蓋骨(女性)

クロマニヨン2号(パリ国立自然史博物館所蔵)

©MNHN-JC Domenech



クロマニヨン人(1号)復元模型

©2025 Sculpture ELISABETH DAYNÈS, France



楽しみ方④ 氷河期をさわって実感！

ケナガマンモスの歯



九州会場限定！
マンモスの牙



(北九州市立自然史・歴史博物館所蔵)

本物のメガファウナの歯や牙を
ハンズオンで体感できます！

オーロックスの歯



楽しみ方その⑤ 楽しく鑑賞！



A sign with a green and blue border. At the top, a camera is shown inside a circular frame with a green checkmark, surrounded by green and blue arrows and stars. Below this, the text reads '写真撮影OK' in large green and blue characters, followed by 'PHOTOGRAPHY ALLOWED' in black. At the bottom, there are two rows of icons and text: the first row shows a camera with a slash and a tripod with a slash, with the text 'フラッシュ・三脚はご遠慮ください'; the second row shows a hand holding a smartphone with a heart and a Facebook icon, with the text 'ハッシュタグをつけてシェア! #MUSEUM #ART #PHOTO'.

写真撮影OK
PHOTOGRAPHY ALLOWED

  フラッシュ・三脚はご遠慮ください

  ハッシュタグをつけてシェア!
#MUSEUM #ART #PHOTO



A sign with a green and blue border. At the top, a man and a woman are shown talking, with thought bubbles containing musical notes, lightbulbs, and smiley faces. Below this, the text reads '展示室内お喋りOK' in large green and blue characters, followed by 'CHATTING ALLOWED IN THE GALLERY' in black. At the bottom, there are two rows of icons and text: the first row shows a hand holding a smartphone with a slash and a smartphone with a slash, with the text '他のお客様の通行や、作品保護にご配慮ください'; the second row shows a hand holding a smartphone with a heart and a Facebook icon, with the text '感想を話して、みんなと共有! #MUSEUM #DISCUSSION #CHATTING #IMPRESSIONS'.

展示室内お喋りOK
CHATTING ALLOWED IN THE GALLERY

  他のお客様の通行や、作品保護にご配慮ください

  感想を話して、みんなと共有!
#MUSEUM #DISCUSSION #CHATTING #IMPRESSIONS

開催概要

会 期 2026年7月18日(土)～9月27日(日)
会 場 九州国立博物館 3階特別展示室
作品件数 105件 約220点(うち3点はハンズオン作品)

主 催:九州国立博物館・福岡県、RKB毎日放送、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、
tysテレビ山口、OBS大分放送、NBC長崎放送、RKK熊本放送

共 催:(公財)九州国立博物館振興財団 **特別協賛:**大和ハウス工業 **協賛:**英進館

特別協力:国立科学博物館、太宰府天満宮 **企画協力:**TBSグロウディア

協 力:北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)

後 援:太宰府市、太宰府市商工会、太宰府観光協会、佐賀新聞社、西日本鉄道

関連イベント

総監修者 篠田謙一氏(国立科学博物館前館長)記念講演会

「氷河期に生きた私たちの祖先」

日時=8月11日(火・祝)午後1時30分～午後3時

※本展観覧券(半券可)もしくはQRチケット画面の提示が必要。

※事前申込が必要。事前申込締切:7月24日(金)必着。詳細はHPにて

関連講座「古代タンパク質から調べる生物の進化」

日時:8月29日(土)午後1時30分～午後3時(予定)

講師:蔦谷匠氏(九州大学高等研究院准教授)

参加:参加無料、事前申し込み不要、本展観覧券不要、当日先着順

いずれも 会場:九州国立博物館 ミュージアムホール 定員:270名 *変更する場合があります。

展覧会公式図録

●価格

3,000円(税込)

氷河期とは？

メガファウナと呼ばれる動物とは？

ネアンデルタール人とクロマニヨン人、それぞれの
特徴とは？

多様な環境の日本を生きた動物、そして当時
の人々の使った道具はどんなものだったのか？

展覧会の内容がさらに深く学べる1冊。



イメージソング
STARGLOW
「Moonchaser」



アンバサダー（音声ガイド）

あばれる君

「氷河期展」の開催によせて

- 極寒の時代、数多くの巨大な動物や私たち人類の祖先が、過酷な環境を生き抜き、または絶滅していきました。
- それは遠い別世界のできごとではなく、私たちに直接的に繋がる、地球の歴史であり、いきものの歴史です。
- 地球温暖化など、様々な問題を抱える現代、私たちが今後どう生きていくべきなのか、歴史から学ぶことが数多くあるでしょう。
- 本展では、人類が見た氷河期の世界を知り、当時を体感するとともに、未来を考える、そんなきっかけにもなれば幸いです。

みなさまのご来館をお待ちしています！

